

④7 茂木町まちなか文化交流館 「ふみの森もてぎ」 整備事業

受賞機関 栃木県 茂木町

全建賞審査委員会の評価ポイント

旧造り酒屋跡地などを活用し、中心市街地の賑わいや活力創造を図るため、図書情報館やギャラリーなどの複合施設を整備した事業。酒蔵の古材を活用することによって記憶の継承を図るとともに、法令に適合させつつ無垢材を使用可能とする設計上の工夫を行い、木をふんだんに活用したぬくもりのある施設を実現し、幅広い世代の多様なニーズに対応できる活動拠点として整備されたことを評価。

1. はじめに

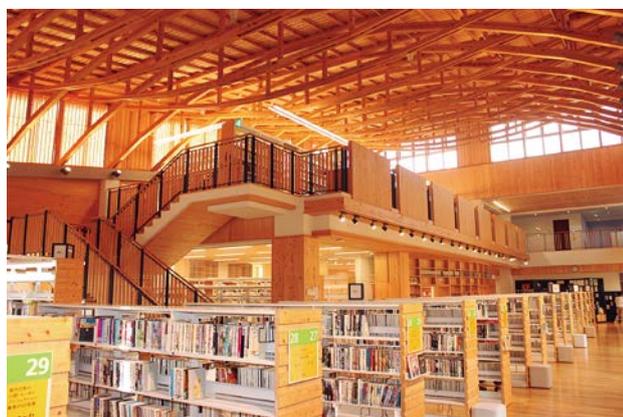
茂木町は、栃木県の東南部に位置し町土の約60%を森林が占める昔ながらの里山原風景を残す風光明媚な町である。町の中心部に約300年続いた酒造蔵元跡地などを活用し「街なかにおける人と自然と文化の共生による町のサロン・文化歴史の伝承・観光拠点づくり」をコンセプトに茂木町まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」を整備した。

2. 事業の概要

- 敷地面積：6,414.99㎡
- 延床面積：2,977.74㎡
- 構造：鉄筋コンクリート一部木造2階建

この建物は、図書館機能のほか、子どもから高齢者までの多くの住民が集い体験学習活動や歴史・文化に触れつつ交流活動の拠点としている。

整備にあたり構造材や仕上材に町有林の無垢材を使用し、木のぬくもりに溢れ、人と環境にやさしい木造木質



図書館屋根架構

化による空間を確保している。特に図書館部分の屋根架構には、アーチとカテナリー（懸垂線）の組み合わせによる接続サスペンアーチ構造により幅16.2mの大空間の屋根を支えている。

そのほか、平行弦トラス桁構造や重ね垂木によるゲルバー梁構造など、特色ある木造建築の工法を採用し、無柱空間を実現させるとともに、旧質蔵や旧仕込み蔵の既存資源の移築活用、さらに環境負荷の低減と災害時の避難所機能をもたせるため太陽光発電設備を完備している。

3. 事業の成果

事業敷地は、準防火地域及び建築基準法第22条区域にまたがり、木造建築には難しい条件の中、流通材規格の木材を活用し、木材を容易に調達できない都市部等でも大型の木造建築が可能であることを示したほか、さらに外観についても壁、屋根の材質、配色など地域の景観と環境に配慮したモデル的な施設となっている。

平成28年7月開館以降、当初想定していた利用者数を大幅に上回り、平成29年5月末現在9万7千人を超え町内外を問わず多くの方々に利用されている。



外観（旧質蔵から図書館を望む）

4. おわりに

今後「ふみの森もてぎ」は、地域振興の拠点である「道の駅もてぎ」や、中心市街地の商店及び既存ストック等と相互に連携し、まちなかの賑わい再生を図るとともに、魅力ある茂木町の情報発信拠点として展開していく。